

H22年度移動支援サービス技術研究支援事業の概要

応募テーマ	実施者	所属	研究課題	目的・意義	研究の概要	期待している成果
テーマ1	西尾 信彦	立命館大学 情報理工学部 教授	・ エネルギーハーベスティング方式による屋内位置特定インフラの研究開発	<ul style="list-style-type: none"> 近年、屋外での歩行者ナビゲーションは一般化されているが、屋内においてはコスト高や精度・カバーエリアの不足等により、現実的な手法が未開発の状況である。 本研究では、ソーラーパネルなどを電源として駆動できる省電力Wi-Fiビーコンを位置特定インフラとして活用する方式について検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 屋内において、低コストで設置・運用可能でかつ、必要に応じて測位精度が制御可能な省電力Wi-Fi(Place Sticker)を開発し、大阪・梅田周辺地下街において実証評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ソーラーパネルなどを電源として駆動できる省電力Wi-Fiビーコンを位置特定インフラとして活用する方式を実現
テーマ1	和田 親宗	九州工業大学 大学院生命体工学研究科 准教授	・ 靴型計測装置による位置特定技術の改良研究	<ul style="list-style-type: none"> 移動制約者の高精度な位置特定を実施するため、GPSや電子タグ等の位置情報と組み合わせることで、位置特定を行う補完技術を開発する。 	<ul style="list-style-type: none"> 歩行訓練者の位置や角度等の方向情報をワイヤレスでリアルタイムに計測し、表示する靴型計測装置を開発し、様々な歩行パターンによる測定を行い計測評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の歩行情報(位置、角度等)から現在位置の把握等を行える靴型計測装置の開発
テーマ2	古矢 利夫	特定非営利活動法人 ことばの道案内 理事長	・ 歩行空間ネットワークデータの音声化研究	<ul style="list-style-type: none"> 視覚障がい者に音声で道案内し、社会参加を促すことを目的に、歩行空間ネットワークデータを音声に変換する技術の開発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚障害者を対象とした音声による経路案内に歩行空間ネットワークデータを活用するため、データの音声化を可能とするプログラムの開発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 歩行空間ネットワークデータの音声化技術の開発
テーマ3	藤原 章正	広島大学 大学院国際協力研究科 教授	・ 聴覚障がい者の公共交通利用を促進する情報提供システムの研究	<ul style="list-style-type: none"> 聴覚障がい者の公共交通利用を促進するため、車内掲示等の視覚情報が無くても降車バス停の到着情報等を獲得できるシステムの開発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 聴覚障がい者が公共交通機関を利用する際に必要とする情報内容、取得のタイミング、取得方法等を把握し、スマートフォンを活用した聴覚障がい者向けの情報提供システムを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンを活用した聴覚障がい者向けの公共交通機関の情報提供システムの構築

テーマ1: 歩行者の移動支援に必要な高精度の位置特定技術

テーマ2: 視覚障害者に対する音声等による移動支援システム

テーマ3: 障害者の身体特性にあった情報提供技術

テーマ4: モビリティサポート技術の標準化に向けた研究